

教職課程コアカリキュラムの検討 —学校種による教職の専門性の差異に着目して—

金 井 徹*

Study on Core Curriculum of teacher-training course

: Focusing on the difference of expertise of the teaching profession between kinds of schools

Toru Kanai

本稿は、2017年11月17日に示された教職課程コアカリキュラムの内容を整理したうえで、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の学校種による教職の専門性の共通性と差異性という観点から検討を行ったものである。

そうした観点から教職課程コアカリキュラムの要点は、各教職科目に含めることが必要な事項に新たな内容が追加されると共に、全体目標、一般目標、到達目標が示され、より具体化されたこと、そして、その内容は幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭の教職科目に共通のものとして示される一方で、一部の事項で学校種による違いを明確化したことである。より具体化された各科目に含めることが必要な事項は、教職の専門性の内容の一部転換を迫るものであり、現行の教職課程に比して学校種の違いをより重視した部分も見受けられ、教職課程を置き教員養成を担う各大学では、そうした点への対応が求められてくるものと考えられる。

キーワード：教職課程コアカリキュラム、教職の専門性、学校種、教員養成

1. はじめに

本稿の目的は、教職課程コアカリキュラム（以下、「コアカリキュラム」と略す。）の内容をとりわけ学校種による教職の専門性の共通性と差異性に着目して検討することである。

2017年11月17日、教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会によって示されたコアカリキュラムは、「全国すべての大学の教職課程で共通に習得すべき資質能力を示す」とされ、その内容に基づく教職課程の再課程認定が2019年度以降に引き続いて教職科目を置く全ての大学を対象として行われることとなる。

このように、教員の養成段階に関わる改革として、大学における教員免許状取得について、2016年から2017年にかけての教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会における検討等を経て、教職課程の科目の大括り化ならびに教職科目と教科科目区分の統合、コアカリキュラムの設定がなされた。これまで、養成段階に限らず免許状更新制の導入など、教員の養

2017年12月15日受理

* 尚絅学院大学 子ども学科 講師

成・採用・研修に関わって多岐に亘る制度改革が行われてきたが、教職課程科目の大括り化等とコアカリキュラムの導入は、中央教育審議会による平成18年の「今後の教員養成・免許制度の在り方について」、平成24年の「教職生活全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」、平成27年の「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学びあい、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」において示されてきた「教職の高度化」のための方策の一つとして位置付けられる⁽¹⁾。

ところで、養成段階の教職課程における各科目の内容は、今日の教職に求められる専門性の一部を構成するものと捉えることができよう。ゆえに、コアカリキュラムの内容を検討することは、今日における教職に期待される専門性の内容とはどのようなものか、そして、その内容はどのように変化するのかの一端を明らかにすることにもつながるものと考えられる。そのような観点から、本稿の結論を先取りすると、コアカリキュラムの内容の要点は、各教職科目に含めることが必要な事項において全体目標、一般目標、到達目標が示され、より具体化されたこと。そして、その内容が幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭の教職科目に共通のものとして示されたこと、その一方で、学校種による内容の違いを注記したことにある。

本稿では、コアカリキュラムの内容を整理しながら、これらの要点についての具体的な検討を踏まえて、学校種による教職の専門性の差異という観点から分析を行いたい。

2. 教職課程コアカリキュラム導入前・後の教職課程

コアカリキュラムは、2017年6月29日に教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会より案が示され、パブリックコメントを募集した後、2017年11月17日に示された。コアカリキュラムは、学校種や職種の共通性の高い現行の教職課程における教育実践演習を除く「教職に関する科目」について作成されたものとされ、それを「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の4つに大別し、各科目に含めることが必要な事項を示している。表1から表4は、幼稚園及び小学校について現行の教職課程と教職課程コアカリキュラム導入後の大括り化された教職課程を示したものである。

コアカリキュラムの導入に伴って、従来の教職課程に関する教育職員免許法施行規則第6条における「教科に関する科目」、「教職に関する科目」、「教科又は教職に関する科目」の3区分を廃止し、総単位数以外は全て省令において規定するとされ、「教科及び教科の指導法に関する科目」（幼稚園のみ「領域および保育内容の指導法に関する科目」）、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間などの指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」の5区分が設けられ、それぞれに「各科目に含めることが必要な事項」が示された。

なお、中学校と高等学校のコアカリキュラム導入後の教職課程については、小学校と総単位数は同じであり、小学校との対比でいうと、中学校については、「教科及び教科の指導法に関する科目」が専修と一種で28単位、二種で12単位となり、「大学が独自に設定する科目」が専修で28単位、一種と二種で4単位となり、総単位数では、二種が35単位という違いがある。そして、高等学校については、二種を除く専修と一種のみであり、「教科及び教科の指導法に

関する科目」が専修と一種で24単位、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」で「道徳の理論及び指導法」がない分、専修と一種で8単位となり、「教育実践に関する科目」は現行通り「教育実習」3単位と「教育実践演習」2単位で合計5単位、「大学が独自に設定する科目」が専修で36単位、一種で12単位という違いがある。

表1 幼稚園（現行）

		各科目に含めることが必要な事項	専修	一種	二種
教科に関する科目			6	6	4
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2	2
		教員の職務内容（研修、含む及び身分保障等を含む。）			
		進路選択に資する各種の機会の提供等			
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	6	4
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			
	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	18	18	12
		保育内容の指導法			
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法	2	2	2
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			
教育実習		5	5	5	
教職実践演習		2	2	2	
教科又は教職に関する科目			34	10	0
			75	51	31

表2 幼稚園（科目の大括り化後）

各科目に含めることが必要な事項			専修	一種	二種
領域及び保育内容の指導法に関する科目	イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		16	16	12
教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。） ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ホ ■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解（1単位以上修得） ヘ 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		10	10	6
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） ロ 幼児理解の理論及び方法 ハ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		4	4	4
教育実践に関する科目	イ ■教育実習（学校インターンシップ（学校体験活動）を2単位まで含むことができる。）（5単位） ロ ■教職実践演習（2単位）		7	7	7
大学が独自に設定する科目			38	14	2
			75	51	31

表3 小学校（現行）

		各科目に含めることが必要な事項	専修	一種	二種
教科に関する科目 ※国語（書写を含む。）、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭及び体育のうち一以上について修得すること			8	8	4
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2	2
		教員の職務内容（研修、含む及び身分保障等を含む。）			
		進路選択に資する各種の機会の提供等			
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	6	4
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			
	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	22	22	14
		各教科の指導法 （一種：2単位×9教科、二種：2単位×6教科）			
		道徳の指導法（一種：2単位、二種：1単位）			
		特別活動の指導法			
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	4	4
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			
		進路指導の理論及び方法			
教育実習		5	5	5	
教職実践演習		2	2	2	
教科又は教職に関する科目			34	10	2
			83	59	37

表4 小学校（科目の大括り化後）

		各科目に含めることが必要な事項	専修	一種	二種
教科及び教科の指導法に関する科目		イ 教科に関する専門的事項※「外国語」を追加 ロ ■各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）（各教科それぞれ1単位以上修得）※「外国語の指導法」を追加	30	30	18
教育の基礎的理解に関する科目		イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。） ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ホ ■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解（1単位以上修得） ヘ 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	10	10	6
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		イ 道徳の理論及び指導法（一種：2単位、二種：1単位） ロ 総合的な学習の時間の指導法 ハ 特別活動の指導法 ニ 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） ホ 生徒指導の理論及び方法 ヘ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 ト 進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。）の理論及び方法	10	10	6
教育実践に関する科目		イ ■教育実習（学校インターンシップ（学校体験活動）を2単位まで含むことができる。）（5単位） ロ ■教職実践演習（2単位）	7	7	7
大学が独自に設定する科目			26	2	2
			83	59	37

コアカリキュラム全体として、新たに追加された事項は、幼稚園の教職課程の「教科に関する科目」が除かれて「領域に関する専門的事項」が、小学校の教職課程の「教科に関する専門的事項」として「外国語」が、「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」として「外国語の指導法」が、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教職課程に共通して「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解（１単位以上修得）」が、小学校、中学校、高等学校の教職課程に共通して「総合的な学習の時間の指導法」が挙げられる。このように、全ての学校種に共通に追加された事項がある一方で、幼稚園では「領域」と小学校、中学校、高等学校では「教科」というように、学校種によって求められる専門性の差異が強く打ち出される内容となったといえよう。

また、「職務内容（チーム学校への対応含む。）」、「（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」、「（カリキュラム・マネジメントを含む。）」、「（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。）」、「（学校インターンシップ（学校体験活動）を２単位まで含むことができる。）」というように、全ての学校種において、既存の項目に新たに追加された内容もあり、こうした点が新たに規定上の教職の専門性の内容を構成することになる。

3. 各科目に含めることが必要な事項の目標

コアカリキュラムは、医学教育、獣医学教育、法科大学院教育等の先行する分野のコアカリキュラムに倣ったものとされている。そこでは、教職課程の各教科に含めることが必要な事項について、より具体的に、学生が修得する資質能力として「全体目標」、全体目標を内容のまとまり毎に分化させた「一般目標」、学生が一般目標に到達するために達成すべき個々の規準としての「到達目標」が示されることとなった。ここでは、各科目に含めることが必要な事項の目標についての整理を試みる。

3-1 教科及び教科の指導法に関する科目、領域及び保育内容の指導法に関する科目

事項	全体目標	一般目標	到達目標
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	（１）当該教科の目標及び内容 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。	１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 ２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 ３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。 ４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 ５）発展的な学習内容について探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。 ※中学校教諭及び高等学校教諭
		（２）当該教科の指導方法と授業設計 基礎的な学習理論を理解し、具体的な場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 ２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 ４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 ５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。 ※中学校教諭及び高等学校教諭

事項	全体目標	一般目標	到達目標
保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びを実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。	（１）各領域のねらい及び内容 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。	１）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ２）当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ３）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ４）領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。
		（２）保育内容の指導方法と保育の構想 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。	１）幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 ２）各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 ３）指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ４）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ５）各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

3－2 教育の基礎的理解に関する科目

事項	全体目標	一般目標	到達目標
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。	（１）教育の基本的概念 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。	１）教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 ２）子供・教員・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。
		（２）教育に関する歴史 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。	１）家族と社会による教育の歴史を理解している。 ２）近代教育制度の成立と展開を理解している。 ３）現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。
		（３）教育に関する思想 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。	１）家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。 ２）学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 ３）代表的な教育家の思想を理解している。
事項	全体目標	一般目標	到達目標
教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	現代社会にける教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。	（１）教職の意義 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。	１）公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 ２）進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。
		（２）教員の役割 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。	１）教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 ２）今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。
		（３）教員の職務内容 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。	１）幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 ２）教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するための生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 ３）教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。
		（４）チーム学校運営への対応 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。	１）校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。

事項	全体目標	一般目標	到達目標
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	現代の学校教育における社会的、制度的又は経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域社会との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的な知識も身に付ける。 *（１－１）、（１－２）、（１－３）はいずれかを習得し、そこに記載されている一般目標と到達目標に沿ってシラバスを編成する。なお、この３つのうち、２つ以上を含んでシラバスを編成する場合は、それぞれの１）から３）までを含むこと。	（１－１）教育に関する社会的事項 社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。	１）学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。 ２）子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。 ３）近年の教育政策の動向を理解している。 ４）諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。
		（１－２）教育に関する制度的事項 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的な知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。	１）公教育の原理及び理念を理解している。 ２）公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。 ３）教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。 ４）教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。
		（１－３）教育に関する経営的事項 学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。	１）公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。 ２）学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解している。 ３）学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。 ４）教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している。
		（２）学校と地域との連携 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。	１）地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 ２）地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。
		（３）学校安全への対応 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。	１）学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。 ２）生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。
事項	全体目標	一般目標	到達目標
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。	（１）幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。	１）幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ２）乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。
		（２）幼児、児童及び生徒の学習の過程 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。	１）様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 ２）主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 ３）幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

事項	全体目標	一般目標	到達目標
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。	(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。	1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。 3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。
		(2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。	1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 4) 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。
		(3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する	1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。
事項	全体目標	一般目標	到達目標
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。	(1) 教育課程の意義 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。	1) 学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 2) 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 3) 教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。
		(2) 教育課程の編成の方法 教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。	1) 教育課程編成の基本原則を理解している。 2) 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 3) 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。
		(3) カリキュラム・マネジメント 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。	1) 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 2) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

3-3 道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

事項	全体目標	一般目標	到達目標
道徳の理論及び指導法	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校のエデュケーション全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。 *（注記は略した。）	（１）道徳の理論 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。	1) 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。 2) 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。 3) 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。 4) 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主要内容を理解している。
		（２）道徳の指導法 学校のエデュケーション全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。	1) 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 2) 道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特質を理解している。 3) 道徳科における教材の特質を踏まえて、授業設計に活用することができる。 4) 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 5) 道徳科の特質を踏まえたが学習評価の在り方を理解している。 6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
事項	全体目標	一般目標	到達目標
総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。 *（注記は略した。）	（１）総合的な学習の時間の意義と原理 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。	1) 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。 2) 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。
		（２）総合的な学習の時間の指導計画の作成 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。	1) 探求的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。 2) 総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。
事項	全体目標	一般目標	到達目標
特別活動の指導法	特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。 学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 *（注記は略した。）	（１）特別活動の意義、目標及び内容 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。	1) 学習指導要領における特別活動の目標及び主要内容を理解している。 2) 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。 3) 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。 4) 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。
		（２）特別活動の指導法 特別活動の指導の在り方を理解する。	1) 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。 2) 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。 3) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4) 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。

事項	全体目標	一般目標	到達目標
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。	(1) 教育の方法論 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。	1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解している。 3) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 4) 学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ※幼稚園教諭は「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。」
		(2) 教育の技術 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。	1) 話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 2) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価基準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。
		(3) 情報機器及び教材の活用 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。	1) 子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 ※幼稚園教諭は「子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。」 2) 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。
事項	全体目標	一般目標	到達目標
生徒指導の理論及び方法	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。	(1) 生徒指導の意義と原理 生徒指導の意義や原理を理解する	1) 教育課程における生徒指導の位置付けを理解している。 2) 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解している。 3) 集団指導・個別指導の方法原理を理解している。 4) 生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方と違いを理解している。
		(2) 児童及び生徒全体への指導 すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。	1) 学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。 2) 基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方を理解している。 3) 児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。
		(3) 個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の形態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。	1) 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。 ※高等学校教諭においては停学及び退学を含む。 2) 暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。 3) インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。

事項	全体目標	一般目標	到達目標
幼児理解の理論及び方法	幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。	(1) 幼児理解の意義と原理 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。	1) 幼児理解の意義を理解している。 2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。 3) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。
		(2) 幼児理解の方法 幼児理解の方法を具体的に理解する。	1) 観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。 4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。
事項	全体目標	一般目標	到達目標
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。	(1) 教育相談の意義と理論 学校における教育相談の意義と理論を理解する。	1) 学校における教育相談の意義と課題を理解している。 2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。
		(2) 教育相談の方法 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する	1) 幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 2) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 3) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。
		(3) 教育相談の展開 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。	1) 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 2) いじめ、不登校、不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 3) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。 4) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。
事項	全体目標	一般目標	到達目標
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。 進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	(1) 進路指導・キャリア教育の意義及び理論 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。	1) 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解している。 2) 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。 3) 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。
		(2) ガイダンスとしての指導 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解する。	1) 職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。 2) 主に全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。
		(3) カウンセリングとしての指導 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方を理解する。	1) 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用在り方を例示することができる。 2) キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方や実践方法を説明することができる。

3-4 教育実践に関する科目

事項	全体目標	一般目標	到達目標
教育実習(学校体験活動)	教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。 一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 * (注記は略した。)	(1) 事前指導・事後指導に関する事項 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許状取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。	1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 2) 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。
		(2) 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項 幼児、児童及び生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校(園)の幼児、児童又は生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。	1) 幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 2) 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実在即して記録することができる。 3) 教育実習校(園)の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 4) 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。
		(3-1) 学習指導及び学級経営に関する事項 ※小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭 大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。	1) 学習指導要領及び児童又は生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 2) 学習指導に必要な基礎的技術(話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 3) 学級担任の役割と職務内容を實地に即して理解している。 4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わるすることができる。
		(3-2) 保育内容の指導及び学級経営に関する事項 ※幼稚園教諭 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。	1) 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 2) 保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 3) 学級担任の役割と職務内容を實地に即して理解している。 4) 様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。

以上のように、「教育の基礎的理解に関する科目」の、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」、「教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。）」、「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」、「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」、「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」、「教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。）」と、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の「教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。）」、「教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理解及び方法」及び「教育実践に関する科目」の「教育実習(学校体験活動)」の9項目については、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の全ての学校種に共通

の全体目標が立てられた。

一方で、「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」の到達目標においては、幼稚園教諭に限定した注記が見られる。また、「教育実習（学校体験活動）」における一般目標では、小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭については「学習指導及び学級経営に関する事項」とされているものが、幼稚園教諭については「保育内容の指導及び学級経営に関する事項」とされており、到達目標においても、小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭における「授業」や「学習指導」という表現を、幼稚園教諭では「保育」に置換えている。

このように、コアカリキュラムが、各科目に含まれる必要のある事項の、より具体的な目標にまで踏み込んで作成されたことは、学校種によって教職に求められる専門性の差異を際立たせる結果となっているともいえよう。その差異は、これまでの教職課程における各事項の取り扱い方の実態を反映したものであるとも考えられるが、とりわけ幼稚園教諭と小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭との間で顕著であるといえよう。

4. まとめ

以上のように、教職課程コアカリキュラムにおける各科目に含めることが必要な事項の多くは、現行のものを継承した内容となっているが、一部に新たに追加された部分もあり、その点では、教職の専門性の内容の転換を迫るものと考えられる。また、各教科に含めることが必要な事項について、より具体的に全体目標、一般目標、到達目標が示されることとなった。幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭の教職科目に共通の全体目標が示されたことは、学校種の違いに関わらない教職一般に共通する専門性の内容がより明確化されたことを意味しよう。その一方で、一部の事項については、現行の教職課程に比して学校種の違いをより重視した内容となっている部分も見受けられ、学校種の違い、とりわけ幼稚園教諭と小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭との間で、求められる教職の専門性の差異を従来の教職課程よりも一層際立たせることとなったとも考えられる。また、教員養成という観点からいえば、複数の教職課程を置く各大学では、そうした学校種による差異への対応が求められてくるものと考えられる。

そして最後に、教職課程コアカリキュラム案に対するパブリックコメントでは、「国が教職課程コアカリキュラムを策定することは、大学の自主性や独自性を阻害するものである。教員養成は、先行してコアカリキュラムを策定している医学教育や獣医学教育等の分野とは異なり、開放制の原則の下、教員養成系大学・学部だけでなくそれ以外の大学・学部でも行われるものであり、先行している分野は教職課程のモデルにはならない。」「細分化された項目を列挙することで、養成される教員の画一化や、教員の資質能力の固定化を招くことになる。また、各大学の裁量を縛ることになるのではないか。」「教職課程コアカリキュラムが教職課程認定や教員採用試験に用いられると「学問の自由」という憲法規定に抵触するため、中央教育審議会答申にあるとおり「参考とする指針」に留め、あくまで各大学や各教授が必要を感じたときにだけ活用する柔軟な目安として扱われるべき。」「教職課程においては、大学の教育研究の一環として、学芸の成果を基礎とする普遍的な内容の教授や批判的な思考力の育成が重要である。教職課程コアカリキュラムは学習指導要領の内容に合わせられているが、10年ごとに改定される学習指導要領を無批判に学ぶことは、大学教育の否定ではないか。」といった批判的

な指摘もなされており、教職課程コアカリキュラムの導入それ自体と、その内容についての批判的な検討が求められているといえる。

注

- (1) 本図愛美「変貌する教員制度－その政策過程」『日本教育行政学会年報』第43号、日本教育行政学会編、2017年、8-10頁。

参考資料

- ・「教職課程コアカリキュラム（案）」（平成29年6月29日）教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会
URL:http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/__icsFiles/afieldfile/017/07/20/1387656_08.pdf（最終アクセス日：2017年12月7日）
- ・「教職課程コアカリキュラム」（平成29年11月17日）教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会
URL:http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/11/27/1398442_1_3.pdf（最終アクセス日：2017年12月7日）
- ・「教職課程コアカリキュラム案に関するパブリックコメント（意見公募手続）の結果について」（平成29年7月20日）
URL:<http://search.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000161989>（最終アクセス日：2017年12月7日）